

れる、そんな毎日が26歳までの5年間続きました。修行中には、面白い人との出会いもありました。近所のラーメン店(神楽坂「龍朋」)でご飯を食べている時、マスターに話かけられ「芦屋から能の修行に来ている」と話すと「うちは夜中の3時までスープを煮込んでいるから、何かあったら気晴らしに来なよ」と言われたのが縁で、夜中によく抜け出してラーメンをご馳走してもらいました。「分からなくてもいいから色々なジャンルの芸術に触れたほうがいいよ。きっと何か得るものがあるから。だから、私もあなたの能を観にいくのですよ」ってマスターは笑いながら言っていました。オーケストラを聴きに連れて行ってもらうなど、もうひとりの師匠のような存在でした。そのお陰で、いまも積極的に絵画やダンス鑑賞などいろいろな芸術に触れるようにしています。

おいき 老木に花

室町時代に能を総合芸術として大成させ能芸の基礎を確立した世阿弥は、伝書のなかで「老木に花」という言葉を残しています。これは、父(観阿弥)の年老いてからの舞いをみた世阿弥が言った「あまり動かず、控えめな舞なのに、そこにこれまでの芸が残花となって表われた。老いても、その老木に花が咲く」から来ています。いかにして「老木に花」を迎えることができるか、これが能楽師としての最大の課題でしょうか。若い時代・30代・40代・50代・その先と各年代で「演ずる」ことを積み重ねた私が、晩年に「花」を咲かすことができるのか。そのためには常に自身を客観的に見ること「離見の見」を大切にしながら演じるようにしています。いつも自分のことを冷静に客観視できるようにする。舞台のうえで演じていながら、もう一人の自分が客席から観ているような状態である。そして、各年代で取り組まなければならない課題「初心」をくみとり慢心せずに「演ずる」ことで次の年代へ進んでいく。世阿弥の言葉「初心忘るべからず」を体現していくことで、私の「花」を咲かせたいと思っています。

芦屋と能

9年前から芦屋神社で「能楽子ども教室」を毎年開催しています。今まで280人ぐらいの子供たちが能を体験してくれました。能を好きになってくれる子どもが一人でも増えることは、嬉しいことです。能をきっかけに日本にある色々な文化に興味を持って、日本のことを深く知る子どもたちがたくさ

ん育ってほしいと思います。そして、このグローバルな時代に芦屋から世界へ飛び立ってもらいたい、そう願いながら毎年子どもたちと接しています。緑豊かで海も山もある芦屋の環境は、能が大切にしている自然と四季を感じ取れる場所です。また、能の演目にも出てくる「ぬえ塚」や業平の父の「阿保親王塚」があるゆかりの地でもあります。本当に魅力的な街だと思います。能楽師として演じるうえで、芦屋の空気を吸っておくことは、大切だと思っています。

縁～皆さんへのメッセージ～

能の演目「千手」に、このようなセリフがあります「一樹の蔭や、一河乃水 皆これ他生の縁と云う」。永きに渡る時代のなかで、この時代に皆さんと私が芦屋市に暮らしていることは、多少の縁があるということだと思います。新型コロナウイルス感染症の影響で大変な思いをされている人もたくさんおられると思いますが、この苦難を耐え前を向いて一緒に進んでまいりましょう。



しゃり 舎利

© 森口ミツル

プロフィール

ながやま こうぞう
長山 耕三 シテ方観世流能楽師



あま 海士

© 工房 円

《故 長山禮三郎 長男》

昭和48年5月2日に生まれる。

4歳「玄象」の仕舞にて初舞台。以後、先代観世鍊之丞師、観世栄夫師、観世喜之師、父の計三十数番舞台を勤め、子方を卒業する。

平成6年5月東京観世喜之家内弟子入門。

平成12年9月独立。平成21年より自己研鑽の場「耕三の会」を立ち上げる。

平成22年稽古舞台「芦屋能舞台」を構え、姉妹都市のモンテペロの留学生に能楽体験を開催。

平成29年重要無形文化財総合指定保持者の認定を受ける。令和3年「芦屋能・狂言鑑賞の会」を引き継ぎ、企画。

現在、東西の舞台で活動。

耕三の会 能『砧』

- 日時 3月27日(日)午後3時開演
- 会場 大槻能楽堂
- 料金 前売り券 S席 10,000円 A席 7,000円 B席 4,000円 (音声ガイド 500円)
- 申し込み 1月26日(水)一般発売開始 ローソンチケット(Lコード 55839)
- 問い合わせ 芦屋能舞台 ☎26-6290



能「砧」長山耕三